

尊光寺報

第118号

徳島県阿波市市場
町大野島字天神41
尊光寺

正信偈講座⑬

(赤い経本七巻)

普放無量無辺光

清浄歡喜智慧光

超日月光照塵刹

一切群生蒙光照

無礙無对光炎王

不斷難思無称光

阿弥陀さまの十二の光その六

数回前から阿弥陀さまの十二の光について話をしています。「あまねく、①無量②無辺光③無礙④無对⑤光炎王⑥清浄⑦歡喜⑧智慧光⑨不斷⑩難思⑪無称光⑫超日月光を放ちて塵刹を照らす。一切の群生、光照を蒙る」とある部分です。今回はそのうちの⑪無称光と⑫超日月光という光の意味を味わいましょう。

⑪「無称」の称とは称讚の意味です。つまり無称とは「どのような言葉をもつてしても、たたえることができないほど素晴らしい」という表現です。



瀬沢ヒコツテから 穂高連峰を望む

息を呑む絶景が目に見え込みました。文字通り、まさに息を呑み、しばらくの沈黙の後に、ようやく「うわー」「すごい」そのような感嘆詞を何度も何度も口にししました。抜けるような空の青、岩肌根づく緑、万年雪の白、様々な表現はあるけれど、この景色は苦しい思いをして登った者それぞれが各々でしか味わうことのできないものではないでしょうか。言葉で様々に表せても、言葉の持

つニアンスは各々伝わりづらく、そもそも言葉以上に雄大な自然の様子は言葉では伝えにくいのです。

仏さまや仏さまの世界である浄土の様子も同じように、言葉では伝えにくいのです。素晴らしい仏さまの様子を様々な形容詞で伝えようとすると、表現しきることは難しく、また、言葉にしてしまうとその言葉の意味に縛られてしまふ。そのようなジレンマを抱えたものが言葉であることを教えてくれます。この「無称」は、言葉では称讚しきれない仏さまの素晴らしさと、我々の言語表現の限界を示してくれているように感じます。

⑫「超日月光」とは、「太陽や月に超えすぐれた光」という意味です。昼夜絶え間なく寄り添ってくださる光と味わうこともできましょう。地球上でもっとも明るく感じるものは太陽です。また電気のない夜ならば満月でしょう。夜空に多くの星々が様々な明るさで輝いていても、満月が出ているとその輝きは見ることができません。日の出とともに、その星々も、満月さえも、輝きは感じられなくなるでしょう。それほど月や太陽の輝きは偉大であり、周りのものを平等に包み照らし続けてくれます。その月や太陽に例えながらも、仏さまの光のはたらきは、それを超えすぐれているというのです。

仏教では、私たちが煩惱に眼を遮られて、迷っている姿を無明(むみやう)と言います。まさに暗闇の中でどこがどこか分からず右往左往している状態です。仏さまは、暗闇の中にいることさえも気づいていない我々を照らし、迷っている私たちの姿に気づかせてくれるのです。迷っているこの姿は、そのまま仏さまに救われていく姿でもあります。仏の光に照らされ安心して人生を歩み、私の元へおいでと、はたらいてくださるのです。

「塵刹」の塵とはチリのように細かく数が多いという意味で、刹とはクシエトラというインドの言葉を音写したもので国土や世界という意味です。「群生」とは、多くの生きとし生けるものという意味です。つまり「照塵刹 一切群生蒙光照」とは、阿弥陀さまの十二の光にありとあらゆる世界の生きとし生けるものが照らされ包まれていくということです。

仏さまの光はこの目で物理的に見ることはできません。仏さまの光とはその智慧を表しているのです。夕日に我が身が染まるとき、私も草木も太陽と同じ赤一色に染まります。南無阿弥陀仏に出会い、いつしか手を合わせるように仕上がりついている私たちは、まさに仏の光に育まれ、そして仏と等しい色味に染め上げられているのです。そのような仏さまに出会えた慶びを、そのお光りを讃えることで表現していきましょう。

現代は、夜でも光に満ちあふれた世界が広がっています。布団に潜つてからもスマートフォンの光を浴びているほどです。しかし、お釈迦様がおられた頃や親鸞聖人の頃、また我々の曾祖父のころはどうだったでしょうか。街灯も家庭の電灯もありません。行灯のような照明器具があっただけで、夜になれば真っ暗に、闇は身近にあっただけでしょう。それだけ、光の存在はたのも

法要・行事のご案内

◎ 秋の彼岸会法要

【9月23日・24日】両日ともに午後1時より法要・法話

※24日は仏教婦人会による特別養護老人ホームお接待日です。朝9時頃よりお手伝いお願い致します。

〈法話 本願寺派布教使 高尾隆徳 師〉

◎ アキヤマセイ「先生の藍染め体験教室

【11月12日】午前9時頃、午後

書院の襖を染めていただいた秋山先生から藍染めを教わります。幼い子供さんから大人の方まで、気楽に参加できます。

※材料費千円程度 ※申込みはお寺まで

◎ 御正忌報恩講法要

【12月22日】午後1時 日中法要

午後6時 大遠夜法要・御伝鈔拝読

【12月23日】午前10時 総永代経法要 お昼御齋(食事)

昼12時半 報恩講御満座・御伝鈔拝読

午後3時 落語 桂優々さん

〈法話 本願寺派布教使 藤井義英 師〉

宗祖親鸞聖人の遺徳を偲び、念仏に出逢えたことを悦ばせて頂く、一年で一番大切な法要です。お誘い合わせの上、参拝下さい。なお23日は参拝の皆様は御齋(昼食)を準備しております。

※本年度の執行当番は土成西組(郡) 出口・秋月・水田・成当 翫城地)です。よろしくお願ひ致します。

◎ 除夜の鐘

【12月31日】午後11時40分頃より

鐘の音とお念仏で来る年を迎えましょう。

どなた様も鐘を叩くことができます。

■ 五ヶ寺連研をのぞいてみませんか。

鴨島町・石井町の浄土真宗本願寺派の寺院五ヶ寺が連続して講座を開いています。仏事作法や仏教の話の話を気軽に聞いてみませんか。副住職も講師の一人として共に学んでいます。

興味ある方はどうぞ気軽に副住職へ連絡下さい。

9月16日、19時半、親鸞聖人の生涯(石井 西方寺)

11月11日、19時半、お釈迦様について(石井 光明寺)

1月20日、18時半、仏教讃歌(鴨島 西円寺)

3月10日、18時半、正信偈の解説(鴨島 徳住寺)

しく有り難く感じられたのでしよう。現代人の私たちにはいまいちピンとこない光の様々な表現ですが、真つ暗な室内や野外キャンプなど、光のない生活を経験するとき、ふと仏さまのほたらきに思いを寄せたいものです。

尊光寺集合納骨墓について

現在、建設中の集合納骨墓は尊光寺に有縁の方であれば、どなたでも納骨することが出来ます。お骨一体でも一部分の分骨でも可能です。お墓を新しく作る必要のない方や、友人知人と同じお墓に入りたい方、今後お墓の供養をする親族のいない方など、様々な事情と相談の上、納骨致します。なお、集合墓の構造上、一度納骨したお骨は返却できません。集合墓の完成と納骨受け入れはこの冬から予定しています。



建設中の集合墓と屋根修復の終わった納骨堂

徳島仏教婦人会連盟研修会

「医療現場における僧侶の関わり」

6月27日、徳島あわぎんホールにおいて、徳島仏教婦人会連盟総会ならびに研修会が開催され、尊光寺からも仏教婦人会会員二十数名、県全体では五百五十名を超える方々が参加した。午後からの研修会では、京都府にある本願寺系の終末期医療法人である本願寺あそかビハール病院で常駐僧侶として携わっている山本成樹師を講師に迎え、医療現場、特に終末期を迎えつつある患者さんにとって宗教がいかなる支えとなつているのかを中心に講演いただいた。体力的、精神的な支えが無くなつてゆく中、南無阿弥陀仏と手を合わせつつ、最後まで精一杯に命輝かせながら生き抜く方々の事例紹介とともに、阿弥陀さまの



お慈悲の尊さを伝えていただいた。午後からの講演は、新聞等で告知され、医療に携わる方など仏教婦人会会員外の姿も多く見られ、注目された研修会となつた。

キッズサンガ「京都本願寺へお参りしよう」

8月23日、子ども達を中心に二十名で京都本願寺ならびに鉄道博物館へ日帰り遠足を実施した。キッズサンガは子供達を中心に、手を合わせる機会を持つてほしいとの願いのもと実施されている。



子供達にとって夏休み最後の思い出になつただろう。初めて見る本山の大きなお堂ときらびやかな堂内に目を輝かせながら、阿弥陀さま、親鸞さまに手を合わせ、おつとめなどを体験した。

アキヤマセイコ先生の藍染め体験教室(募集)

書院の藍染め襦を手掛けてくださった秋山精子さんによる藍染め体験教室が、11月12日、午前九時頃、午後、尊光寺で催される。秋山さんは草木による染色研究に長く携われ、お弟子さんも県内外に多数。阿波藍に多くの方が触れてほしいと、秋山さんから体験会開催の提案があつた。●幼い子供さんから大人まで、どなたでも参加可。●準備の為、お寺まで申し込みください。●材料費として千円程度ご準備ください。



平成30年 年忌表

1周忌	平成29年
3回忌	平成28年
7回忌	平成24年
13回忌	平成18年
17回忌	平成14年
25回忌	平成 6年
33回忌	昭和61年
50回忌	昭和44年
61回忌	昭和33年
100回忌	大正 8年
150回忌	明治 2年
200回忌	文政 2年
250回忌	明和 6年
300回忌	享保 4年

平成29年 年忌表

1周忌	平成28年
3回忌	平成27年
7回忌	平成23年
13回忌	平成17年
17回忌	平成13年
25回忌	平成 5年
33回忌	昭和60年
50回忌	昭和43年
61回忌	昭和32年
100回忌	大正 7年
150回忌	慶応 4年
200回忌	明治元年
250回忌	文化15年
250回忌	文政元年
250回忌	明和 5年
300回忌	享保 3年

● 仏教講座「伝絵で学ぶ親鸞聖人」月1回金曜午後1時半、10月6日、11月3日、11月24日(3回で完結 短期講座) 親鸞聖人の一生が画かれた「伝絵」を見ながら、親鸞聖人の生涯とその教えにせまります。

● 仏教講座「御文章」を読む 月1回金曜午前10時、10月13日、11月10日、11月24日、1月12日、2月9日、：「朝には紅顔ありて夕には白骨となる…」本願寺八代蓮如上人が残した『御文章』を読みながら、仏教に触れてみませんか。

● 仏教講座「歎異抄」を読む 月1回月曜午後1時半、10月16日、11月13日、12月4日、1月8日、2月12日、：「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」で知られる『歎異抄』を読みながら親鸞聖人の教えを味わいます。

副住職担当
NHK文化センター
徳島教室のご案内
各講座、受講生募集中
6回半年¥13,478円
問い合わせは、
徳島駅前NHK文化センター
(電話 088-611-6881)

所在地/770-0832 徳島市寺島本町東3-13-1 徳島駅前 濱口ビル8F

お寺で落語
本年の報恩講法要の余興(12月23日)は、落語家、桂優々さん。優々さんは、滋賀県出身、米朝事務所所属の若手落語家、師匠は桂雀々師。尊光寺では2014年に落語講演を行つており、二回目。報恩講の余興としてどうぞお楽しみください。